



おおあし

第1号

《 大芦小HP <https://oashi-e-konosu.edumap.jp/> 》

地域とともに歩む学校を目指して

お子様のご入学そして進級おめでとうございます。令和4年度は、1年生21名が入学し、通常学級6学級、特別支援学級1学級、児童113名でスタートしました。本校は、創立42年目を迎えます。本市には140年以上の歴史のある小学校がたくさんあり、それと比べると歴史は浅い方ですが、保護者や地域の方の本校の教育活動へのご理解ご協力には昨年度一年間を通して熱いものを感じました。感染症防止のため、地域の方をお招きしての体験活動等はコロナ以前のようにはいきませんでした。規模を縮小しながらも実施できましたことに感謝申し上げます。コロナの終息が見通せない中、今年度も制限・制約が伴いますが、「できない」ではなく「どうしたらできるか」と前向きに創意工夫して教育活動を進めて参ります。

教育は「学校」（学校教育）「家庭」（家庭教育）「地域」（社会教育）三位一体となって推進することが、子どもたちに、知育・徳育・体育のバランスのとれた「生きる力」を身に付けさせることができます。「家庭用彩の国の道徳」の見開きには、明治31年4月幡羅高等小学校（かつて熊谷市に在所）の『「家庭心得」生徒保護者へのご注意』の引用があります。

拝啓、ことわざにも、「教育は、家庭の教えで芽を出し、学校の教えで花が咲き、社会の教えで実を結ぶ」とありますので、学校と家庭とは、常にその方向を同じくし、お互いに力をあわせておさない子を社会の悪い風習に染まらせないようにしたいものです。

ところで、明治6年から家庭や地域に見守られてきた笠原小学校が在籍児童の減少により3月31日、148年の歴史に幕を下ろしました。3月29日の埼玉新聞「さきたま抄」には、県内で令和3年度末をもって閉校になる小学校9校、中学校2校について「無視できない数」とし、「地域に学校がなくなり、より良い教育環境を求めて子育て世帯が流出してしまえば、人口減少に拍車がかかってしまう。子どもは地域の宝。統廃合は仕方ないとしても、教育や子育てなど地域ぐるみで支え合う環境が必要だ。」と結んでいます。かつては本校も1,000人を超える児童が在籍していた時期もありましたが、現在は10分の1となりました。本校では、「大芦っ子ファンクラブ」（学校応援団）が平成21年7月に発足して以来、学習補助や交通安全見守り、教育環境整備（除草・樹木の剪定）、農業体験学習支援（野菜栽培・米作り）でお世話になっております。お子さんやお孫さんがすでに卒業されている方もいらっしゃいます。昨年度の学校評議員会では評議員の皆様から、「先生と子どもの距離が近く、自己肯定感の高まりにつながっている」、保護者の学校評価では「少人数ということもあるが、子ども一人ひとりにきめ細かく指導が行き届いている」という感想もいただきました。今後も、小規模校の「強み」を生かしていけるよう、家庭や地域の皆様のお力を借りながら子どもたちの無限の可能性を伸ばしていきます。

学校教育目標	自分から意欲的に活動し心豊かでたくましい大芦小の子を育てる		
学校経営方針	子どもたちの笑顔が輝く、地域とともに歩む学校		
めざす学校像	○地域とともに歩む	○生きる力を育む	○明るい挨拶にあふれる
	児童・学ぶ喜び	保護者・学ばせる喜び	教職員・教える喜び
	保護者・地域・来校者・開かれたきれいな学校		
めざす児童像	進んで学ぶ子（知育）	思いやりのある子（徳育）	やりぬく子（体育）

